

無機分析化学概論B

高石 慎也(錯体化学研究室)

本日の内容

18章 スペクトルの解釈

- ≫ 化学Aの復習(方位量子数、磁気量子数、スピン量子数)
- ≫ 多電子系の軌道・スピン角運動量
- ≫ 微視的状态
- ≫ 項記号
- ≫ Hundの規則

今日の内容を詳しく知りたい人は

- ・ハウス著 無機化学(上) 第2章
- ・シュライバー・アトキンス著 無機化学第4版(下) 第19章
- ・今野豊彦著 物質の対称性と群論 第7章

化学Aの復習

- 主量子数(n) = 1, 2, 3, ...

K殻, L殻, M殻に対応(l の最大値を規定)

- 方位量子数(l) = 0, 1, 2, 3, ... ($n-1$)

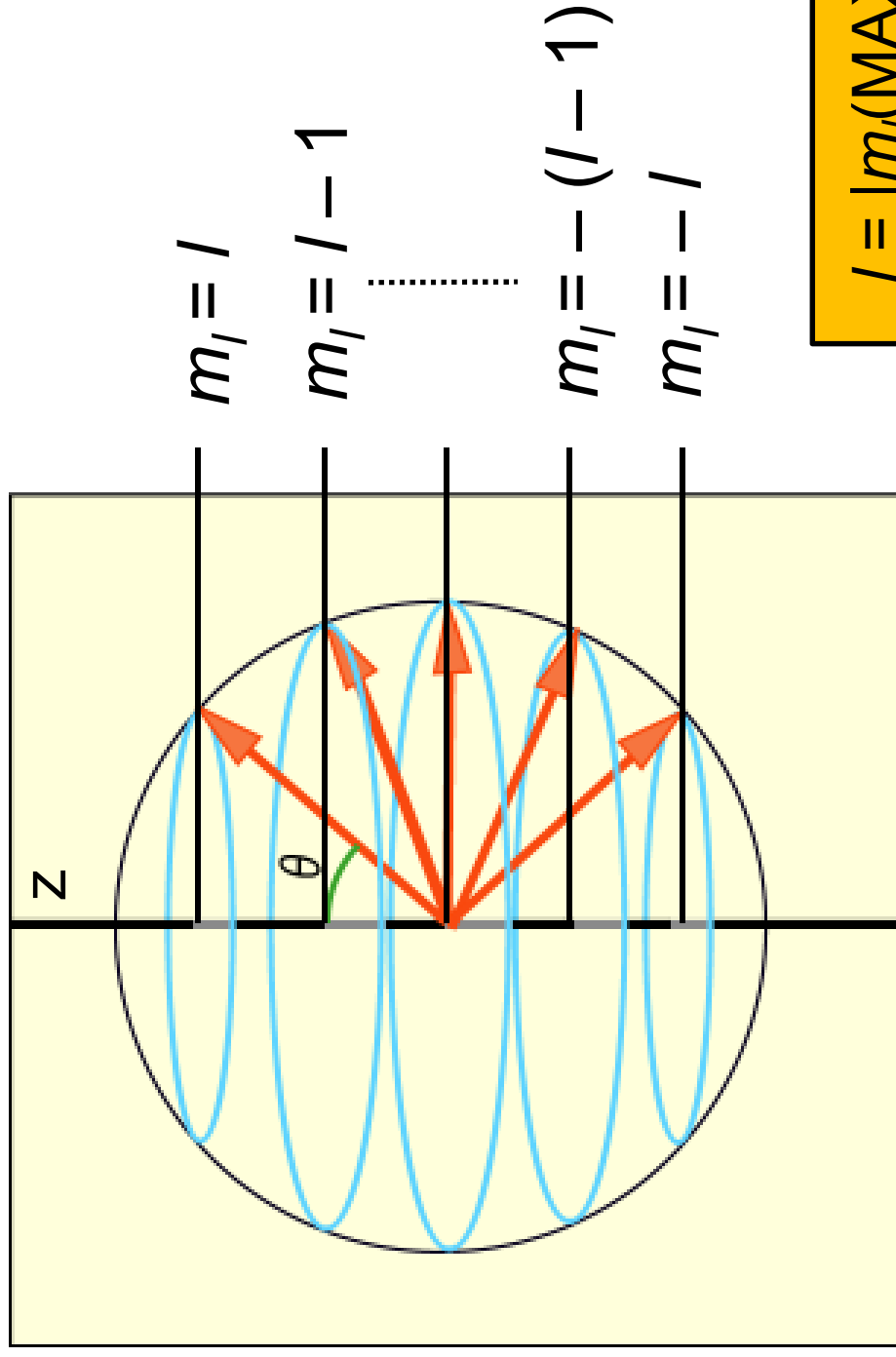
波動関数の形に対応(m_l の絶対値の最大値を規定)

- 磁気量子数(m_l) = 0, ± 1 , ± 2 , ... $\pm l$

- スピン量子数(m_s) = $\pm 1/2$

l と m_l の関係(s と m_s の関係)

半径 $\sqrt{l(l+1)}$ の球



$$l = |m_l(\text{MAX})|$$
$$s = |m_s(\text{MAX})|$$

s と m_s の関係も同様

化学Aの復習

主量子数(n) = 1, 2, 3...

K殻, L殻, M殻に対応(l の最大値を規定)

(球の半径の最大値を規定)

方位量子数(l) = 0, 1, 2, 3...($n-1$)

波動関数の形に対応(m_l の絶対値の最大値を規定)

(球の半径を規定)

磁気量子数(m_l) = 0, ± 1 , ± 2 , ... $\pm l$

(球の中心から表面へのベクトルのz成分(整数)を規定)

スピン量子数(m_s) = $\pm 1/2$

(球の中心から表面へのベクトルのz成分を規定)

多電子の場合(1電子と区別して大文字で表す)

d^2 電子配置の場合

>>> 共にd電子なので、 $l_1 = l_2 = 2$

>>> スピン角運動量は1/2なので $s_1 = s_2 = 1/2$

$$L = (l_1 + l_2), (l_1 + l_2 - 1), (l_1 + l_2 - 2) \dots |l_1 - l_2|$$

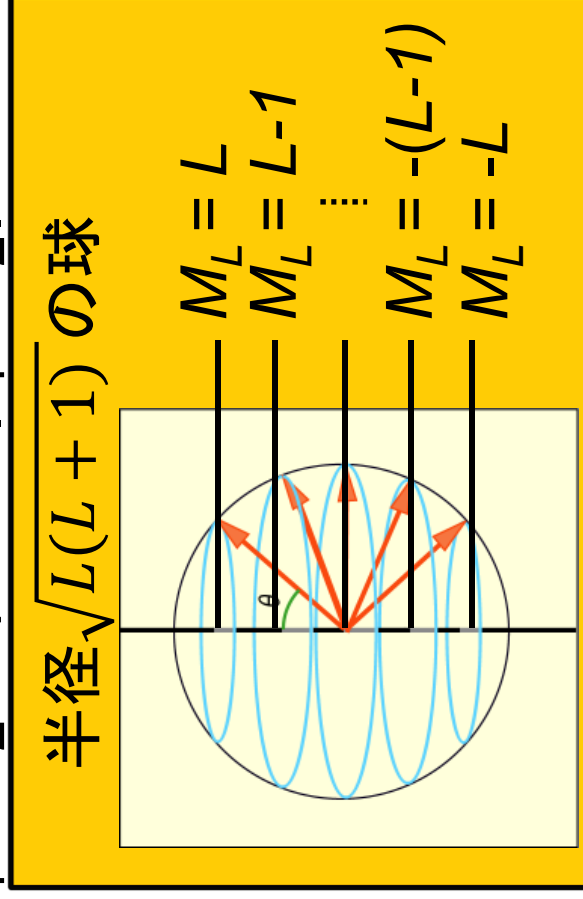
$$= 4, 3, 2, 1, 0 \rightarrow \boxed{M_L = 0}$$

$$\downarrow \boxed{M_L = 1, 0, -1}$$

$$\downarrow \boxed{M_L = 2, 1, 0, -1, -2}$$

$$\downarrow \boxed{M_L = 3, 2, 1, 0, -1, -2, -3}$$

$$\downarrow \boxed{M_L = 4, 3, 2, 1, 0, -1, -2, -3, -4}$$



$$S = (s_1 + s_2), (s_1 + s_2 - 1), (s_1 + s_2 - 2) \dots |s_1 - s_2|$$

$$= 1, 0 \rightarrow \boxed{M_S = 0}$$

$$\downarrow \boxed{M_S = 1, 0, -1}$$

$$L = |M_L(\text{MAX})|$$

$$S = |M_S(\text{MAX})|$$

M_L, M_S の内訳(微視的状态)

>>電子が入る部屋(d軌道の場合は10個)

m_l / m_s	+2	+1	0	-1	-2
+1/2	○	○			
-1/2					

$$M_L = \sum m_l$$

$$M_S = \sum m_s$$

$$M_L = +3, M_S = +1 \quad \Rightarrow \quad (2^+, 1^+)$$

その他の微視的状态

m_l	+2	+1	0	-1	-2
m_s					
+1/2	○				
-1/2		○			

$(2^+, 1^-)$

m_l	+2	+1	0	-1	-2
m_s			○		
+1/2	○				
-1/2					

$(2^+, 0^+)$

m_l	+2	+1	0	-1	-2
m_s					
+1/2	○				
-1/2	○				

$(2^+, 2^-)$

${}_{10}C_2 = 45$ 通り

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4		$(2^+, 2^-)$	
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 1^-) (2^-, 1^+)$	$(2^+, 1^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(2^+, 0^-) (2^-, 0^+)$ $(1^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-) (2^-, -1^-)$	$(2^+, -1^-) (2^-, -1^+)$ $(1^+, 0^-) (1^-, 0^+)$	$(1^+, 0^+) (2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-) (1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-) (2^-, -2^+)$ $(1^+, -1^-) (1^-, -1^+)$ $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+) (1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-) (-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-) (-2^-, 1^+)$ $(-1^+, 0^-) (-1^-, 0^+)$	$(-1^+, 0^+) (-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-) (-2^-, 0^+)$ $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-) (-2^-, -1^+)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

LとSの値を記号で表す(項記号)

$$L = 0(S), 1(P), 2(D), 3(F), 4(G)$$

$$S = 0(1), 1/2(2), 1(3), \dots$$

スピンの多重度(= $2S+1$)

$$2S+1 L$$

微視的状態と項記号の対応づけ

- ① $M_L=4$ が最大なので $L=4$ に属する。 $\hookrightarrow 1G$
またその時、 $M_S=0$ が最大なので $S=0$

$1G$ に属する微視的状态は

$$M_L = 4, 3, 2, 1, 0, -1, -2, -3, -4$$

$$M_S = 0$$

なので9種類。 $M_S=0$ の列からそれぞれの M_L から一つ選ぶ
(残り $45-9=36$ 種類)

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4		$(2^+, 2^-)$	
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 1^-)$ $(2^-, 1^+)$	$(2^+, 1^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(2^+, 0^-)$ $(2^-, 0^+)$ $(1^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-)$ $(2^-, -1^-)$	$(2^+, -1^-)$ $(2^-, -1^+)$ $(1^+, 0^-)$ $(1^-, 0^+)$	$(1^+, 0^+)$ $(2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-)$ $(1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-)$ $(2^-, -2^+)$ $(1^+, -1^-)$ $(1^-, -1^+)$ $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+)$ $(1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-)$ $(-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-)$ $(-2^-, 1^+)$ $(-1^+, 0^-)$ $(-1^-, 0^+)$	$(-1^+, 0^+)$ $(-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-)$ $(-2^-, 0^+)$ $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-)$ $(-2^-, -1^+)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

- ② $M_L=4$ は帰属ができたので、次は $M_L=3$
帰属のできていない M_L は $M_L=3$ が最大なので $L=3$ に属する
またその時、 $M_S=1$ が最大なので $S=1$ \Rightarrow **3F**

3F に属する微視的状态は

$$M_L = 3, 2, 1, 0, -1, -2, -3$$

$$M_S = 1, 0, -1$$

なので21種類。それぞれの M_S, M_L から一つ選ぶ
(残り $36 - 21 = 15$ 種類)

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4			
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 2^-)$ $(2^+, 1^-)$ $(2^+, 0^-)$	$(2^+, 1^+)$ $(2^+, 0^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(1^+, 1^-)$ $(2^+, 0^-)$ $(2^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-)$ $(2^-, -1^-)$	$(2^+, -1^-)$ $(1^+, 0^-)$ $(2^-, -1^-)$ $(1^-, 0^+)$	$(1^+, 0^+)$ $(2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-)$ $(1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-)$ $(1^+, -1^-)$ $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+)$ $(1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-)$ $(-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-)$ $(-1^+, 0^-)$ $(-2^-, 1^-)$ $(-1^-, 0^+)$	$(-1^+, 0^+)$ $(-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-)$ $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-)$ $(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

- ③ $M_L=3$ まで帰属ができたので、次は $M_L=2$ 。
帰属のできていない M_L は $M_L=2$ が最大なので $L=2$
 $M_S=1$ は 3F にとられたので $M_S=0$ が最大。したがって $S=0$

⇨ $1D$

1F に属する微視的状态は

$$M_L = 2, 1, 0, -1, -2$$

$$M_S = 0$$

なので5種類。 $M_S=0$,それぞれの M_L から一つ選ぶ
(残り $15-5=10$ 種類)

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4		$(2^+, 2^-)$	
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 1^-)$ $(2^-, 1^+)$	$(2^+, 1^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(2^+, 0^-)$ $(2^-, 0^+)$ $(1^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-)$ $(2^-, -1^-)$	$(2^+, -1^-)$ $(2^-, -1^+)$ $(1^+, 0^-)$ $(1^-, 0^+)$	$(1^+, 0^+)$ $(2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-)$ $(1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-)$ $(2^-, -2^+)$ $(1^+, -1^-)$ $(1^-, -1^+)$ $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+)$ $(1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-)$ $(-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-)$ $(-2^-, 1^+)$ $(-1^+, 0^-)$ $(-1^-, 0^+)$	$(-1^+, 0^+)$ $(-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-)$ $(-2^-, 0^+)$ $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-)$ $(-2^-, -1^+)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

- ④ $M_L=2$ まで帰属ができたので、次は $M_L=1$ 。
帰属のできていない M_L は $M_L=1$ が最大なので $L=1$
 $M_S=1$ が最大。したがって $S=1$

⇨ 3P

3P に属する微視的状态は

$$M_L = 1, 0, -1$$

$$M_S = 1, 0, -1$$

なので9種類。それぞれの M_S, M_L から一つ選ぶ
(残り $10-9=1$ 種類)

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4			
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 2^-)$ $(2^+, 1^-)$ $(2^+, 0^-)$	$(2^+, 1^+)$ $(2^+, 0^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(1^+, 1^-)$ $(2^+, 0^-)$ $(2^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-)$ $(2^-, -1^-)$	$(0^+, 0^-)$ $(1^+, 0^-)$ $(2^+, -1^-)$ $(2^+, -1^-)$	$(1^+, 0^+)$ $(2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-)$ $(1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-)$ $(1^+, -1^-)$ $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+)$ $(1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-)$ $(-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-)$ $(-1^+, 0^-)$ $(-1^+, 0^-)$	$(-1^+, 0^+)$ $(-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-)$ $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-)$ $(-2^+, -1^-)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

- ⑤ $M_L=1$ まで帰属ができたので、次は $M_L=0$ 。
帰属のできていない M_L は $M_L=0$ が最大なので $L=0$
残っている M_S は $M_S=0$ が最大。したがって $S=0$

⇨ 1S

1S に属する微視的状态は

$$M_L = 0$$

$$M_S = 0$$

なので1種類。それぞれの $M_S=0$, $M_L=0$ から一つ選ぶ
(残り $1-1=0$ 種類)

M_L	M_S		
	-1	0	+1
+4		$(2^+, 2^-)$	
+3	$(2^-, 1^-)$	$(2^+, 1^-)$, $(2^-, 1^+)$	$(2^+, 1^+)$
+2	$(2^-, 0^-)$	$(2^+, 0^-)$, $(2^-, 0^+)$, $(1^+, 1^-)$	$(2^+, 0^+)$
+1	$(1^-, 0^-)$, $(2^-, -1^-)$	$(2^+, -1^-)$, $(2^-, -1^+)$, $(1^+, 0^-)$, $(1^-, 0^+)$	$(1^+, 0^+)$, $(2^+, -1^+)$
+0	$(2^-, -2^-)$, $(1^-, -1^-)$	$(2^+, -2^-)$, $(2^-, -2^+)$, $(1^+, -1^-)$, $(1^-, -1^+)$, $(0^+, 0^-)$	$(2^+, -2^+)$, $(1^+, -1^+)$
-1	$(-1^-, 0^-)$, $(-2^-, 1^-)$	$(-2^+, 1^-)$, $(-2^-, 1^+)$, $(-1^+, 0^-)$, $(-1^-, 0^+)$	$(-1^+, 0^+)$, $(-2^+, 1^+)$
-2	$(-2^-, 0^-)$	$(-2^+, 0^-)$, $(-2^-, 0^+)$, $(-1^+, -1^-)$	$(-2^+, 0^+)$
-3	$(-2^-, -1^-)$	$(-2^+, -1^-)$, $(-2^-, -1^+)$	$(-2^+, -1^+)$
-4		$(-2^+, -2^-)$	

まとめ

≫微視的状态から見た場合の数

$$10C_2 = 45 \text{ 通り}$$

≫項記号から見た場合の数

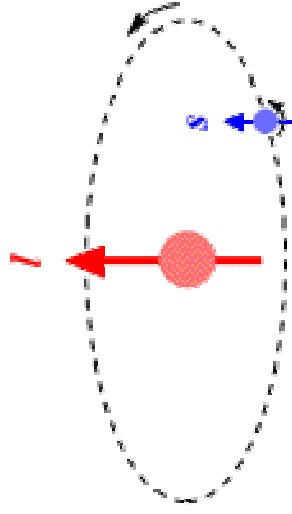
項記号	軌道の多重度	スピンの多重度	多重度
$1G$	$2 \times 4 + 1 = 9$	1	9
$3F$	$2 \times 3 + 1 = 7$	3	21
$1D$	$2 \times 2 + 1 = 5$	1	5
$3P$	$2 \times 1 + 1 = 3$	3	9
$1S$	$2 \times 0 + 1 = 1$	1	1
合計			45

1:1対応していないが、総和は一致している
(状態は微視的状态の線形結合で表される)

基底状態の求め方

Hundの規則

1. S が最大になる状態が好まれる
(エネルギーが低い)
2. L が最大になる状態が好まれる
3. 半占有以下では L と S は逆符号、
半占有以上では L と S は同符号が好まれる



イメージ: スピン(S)は自転、軌道(L)は公転

電子間の反発が最小になるように電子は入る

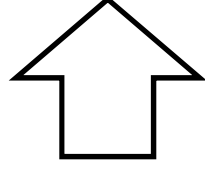
Hund則から導かれる基底項

d²電子配置の場合

S最大よりS=1

L最大よりL=3 (2+1)

(L=4ではS=0しか取れない)



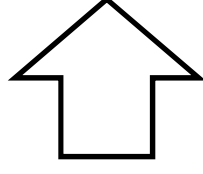
3F

トリプレットFと読む

d³電子配置の場合

S最大よりS=3/2

L最大よりL=3 (2+1+0)



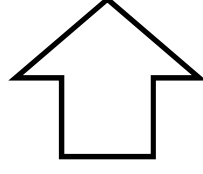
4F

カルテットFと読む

d⁴電子配置の場合

S最大よりS=2

L最大よりL=2 (2+1+0+-1)



5D

クインテットDと読む

問題

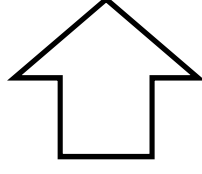
$d^5 \sim d^9$ 電子配置の基底項を求めよ。

m_l \ m_s	+2	+1	0	-1	-2
+1/2	○	○			
-1/2					

ヒント： $L = |M_L(\text{MAX})|$ 、 $S = |M_S(\text{MAX})|$ なので、
 $|M_L(\text{MAX})|$ 、 $|M_S(\text{MAX})|$ となる入り方を探せばよい。

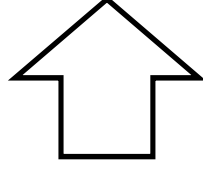
Hund則から導かれる基底項

d^5 電子配置の場合
S最大より $S=5/2$
L最大より $L=0$



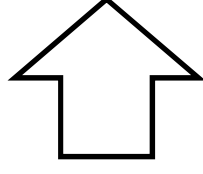
$6S$

d^6 電子配置の場合
S最大より $S=2$
L最大より $L=2$



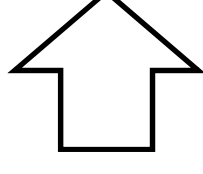
$5D$

d^7 電子配置の場合
S最大より $S=3/2$
L最大より $L=3$



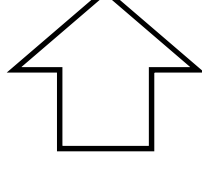
$4F$

d^8 電子配置の場合
S最大より $S=1$
L最大より $L=3$



$3F$

d^9 電子配置の場合
S最大より $S=1/2$
L最大より $L=2$



$2D$

本日の内容

18章 スペクトルの解釈

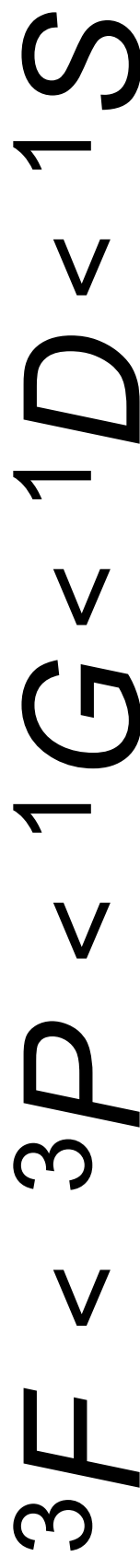
- ≫ 先週の復習
- ≫ Hund則の限界
- ≫ ラッカーパラメーター
- ≫ 配位子場中の項の分裂
- ≫ Orgelダイアグラム、田辺－菅野ダイアグラム
- ≫ 選択則と強度

今日の内容を詳しく知りたい人は

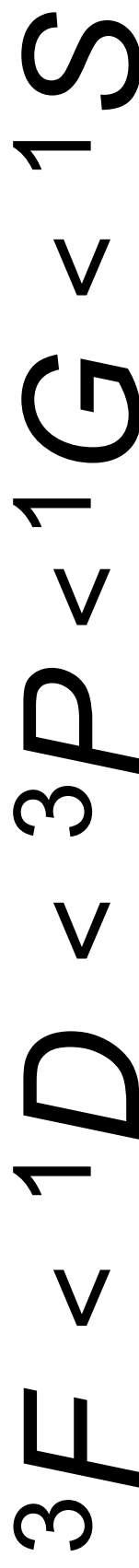
- ・ハウス著 無機化学(下) 第18章
- ・シュライバー・アトキンス著 無機化学第4版(下) 第19章
- ・今野豊彦著 物質の対称性と群論 第7章

Hund則の限界

d²電子配置の場合



と予想されるが、実際は異なる



基底状態はOK

励起状態については正しく予想できない

ラカーパラメータ

電子間反発の効果をより定量的にあっかつたもの。
(Hund則の改良版のようなもの。)

- ・ラカーパラメータA
- ・ラカーパラメータB
- ・ラカーパラメータC

d^2 電子配置の場合

$$E(^1S) = A + 14B + 7C$$

$$E(^1G) = A + 4B + 2C$$

$$E(^1D) = A - 3B + 2C$$

$$E(^3P) = A + 7B$$

$$E(^3F) = A - 8B$$

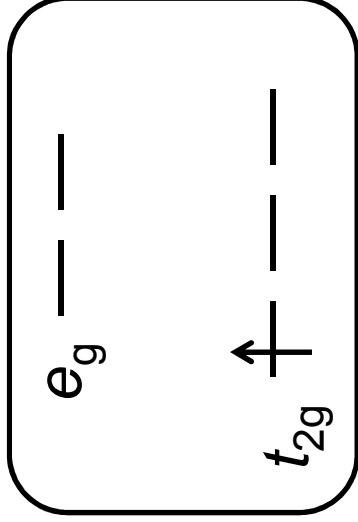
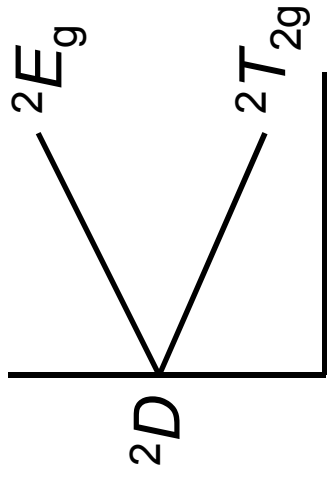
・重要なのはエネルギー差なので、
A項は無視できる

・経験的には $C=4B$
(詳細は省略)

配位子場中の項の分裂

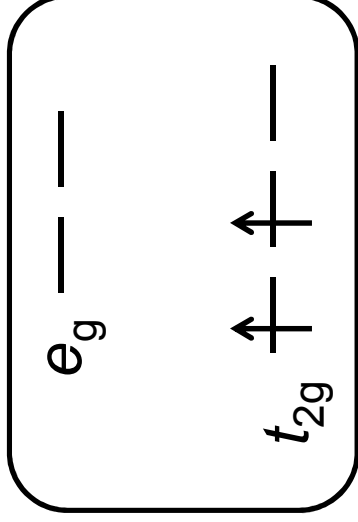
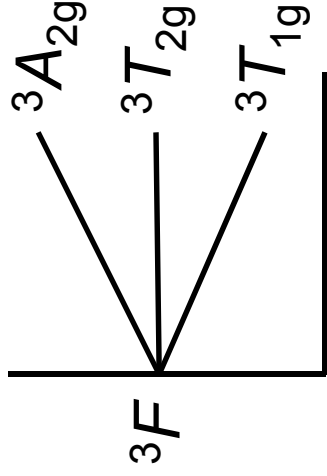
A項: 縮退なし
E項: 二重縮退
T項: 三重縮退

d^1



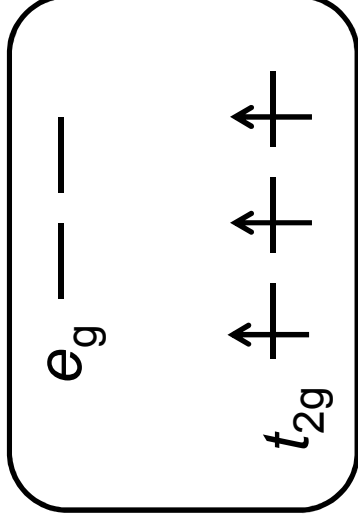
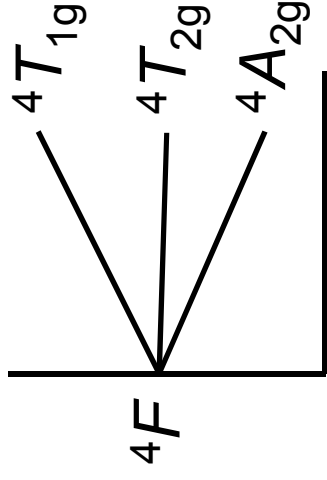
3つの t_{2g} 軌道のどこに
入ってもエネルギーは同じ
→ 三重縮退(T項)

d^2



3つの t_{2g} 軌道のどこに
入ってもエネルギーは同じ
→ 三重縮退(T項)

d^3

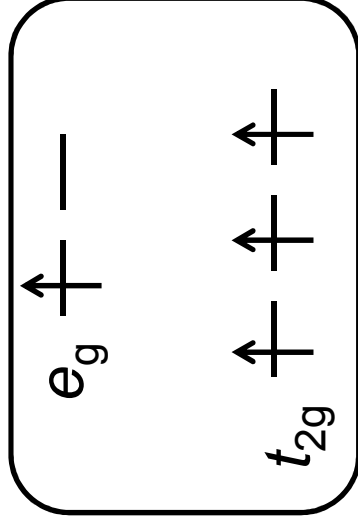
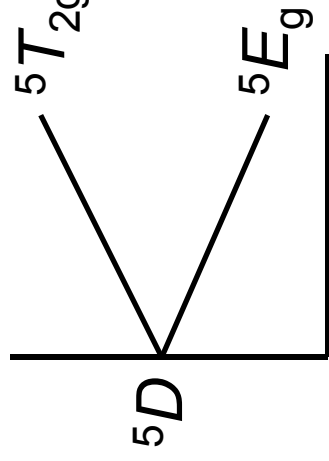


入りかたは一義的
→ 縮退なし(A項)

配位子場中の項の分裂

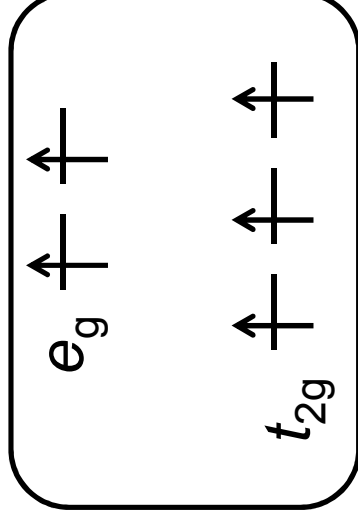
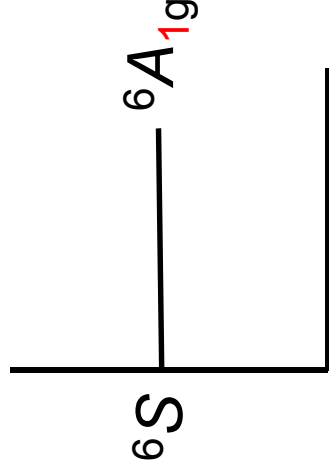
A項: 縮退なし
E項: 二重縮退
T項: 三重縮退

d^4



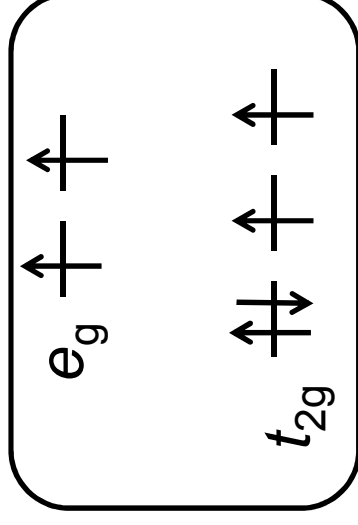
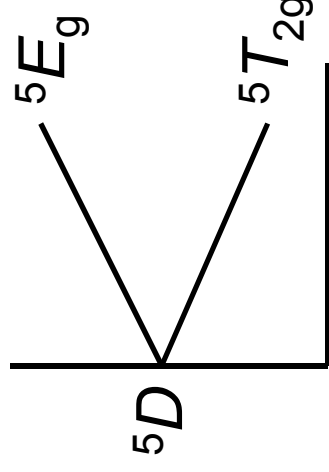
2つの e_g 軌道のどちららに
入ってもエネルギーは同じ
→二重縮退(E項)

d^5



入りかたは一義的
→縮退なし(A項)

d^6

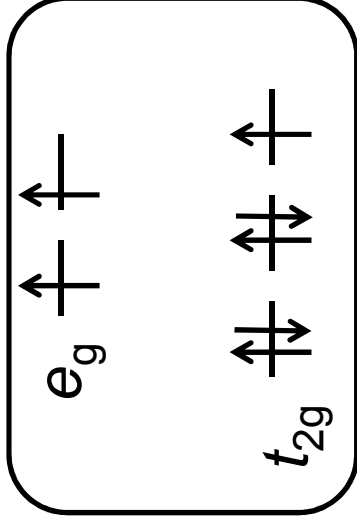
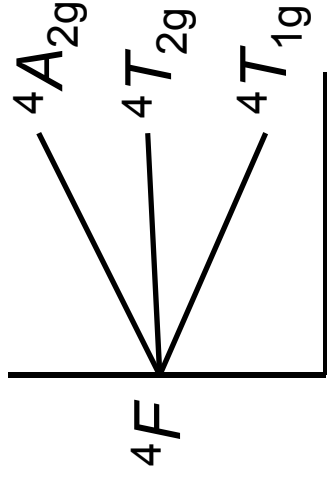


3つの t_{2g} 軌道のどこに
入ってもエネルギーは同じ
→三重縮退(T項)

配位子場中の項の分裂

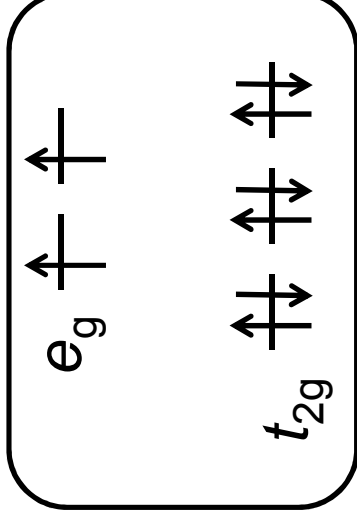
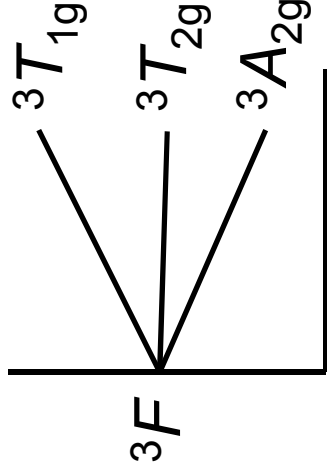
A項: 縮退なし
E項: 二重縮退
T項: 三重縮退

d^7



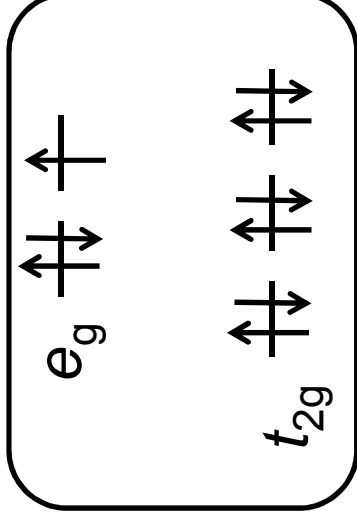
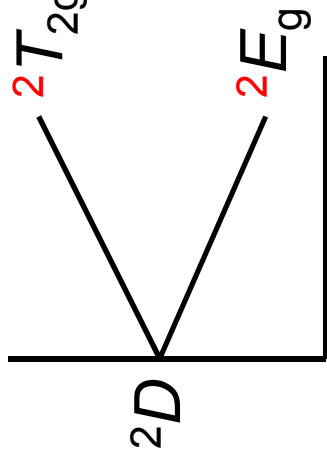
3つの t_{2g} 軌道のどこに
入ってもエネルギーは同じ
→ 三重縮退 (T項)

d^8



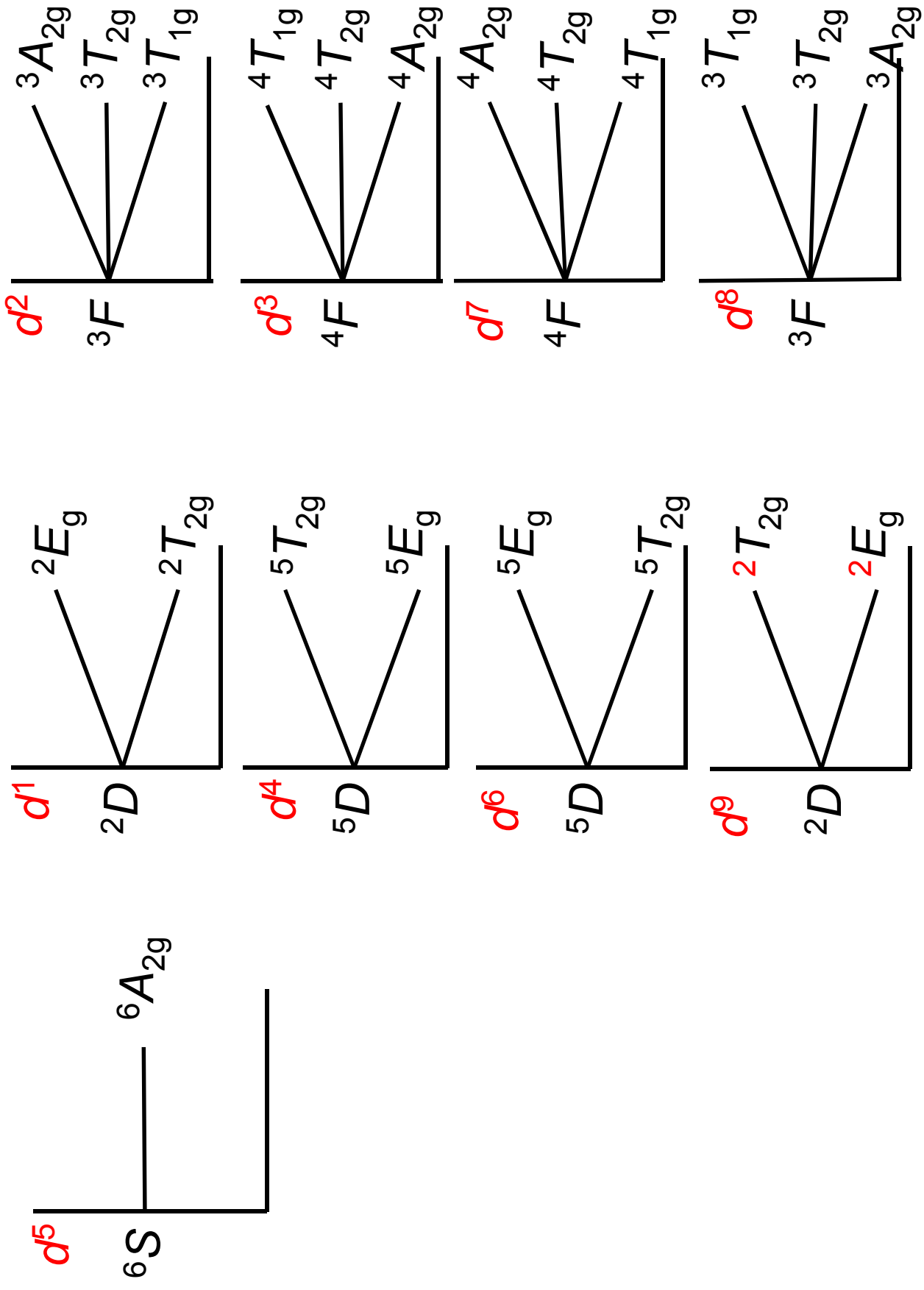
入りかたは一義的
→ 縮退なし (A項)

d^9

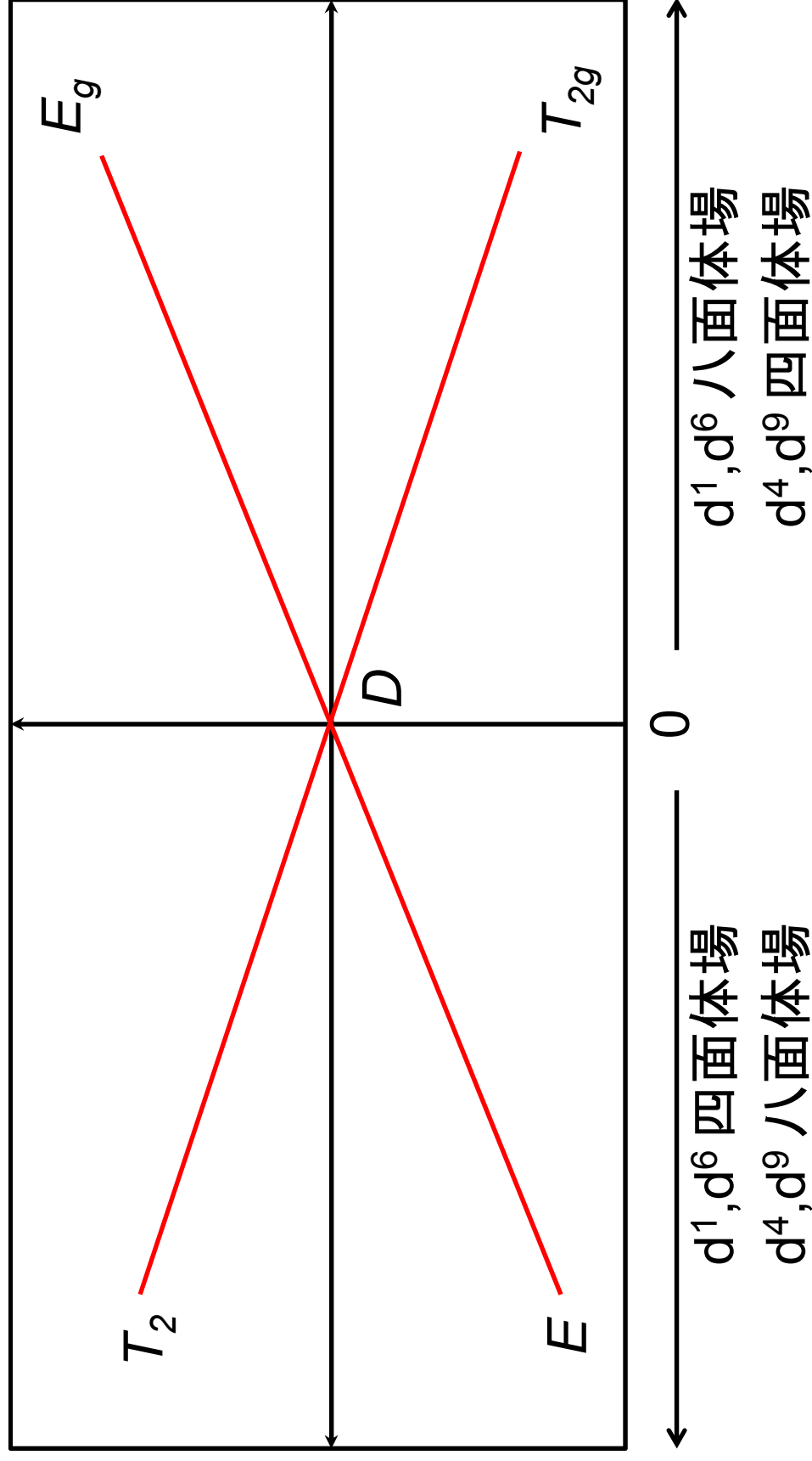


3つの t_{2g} 軌道のどこに
入ってもエネルギーは同じ
→ 三重縮退 (T項)

分類

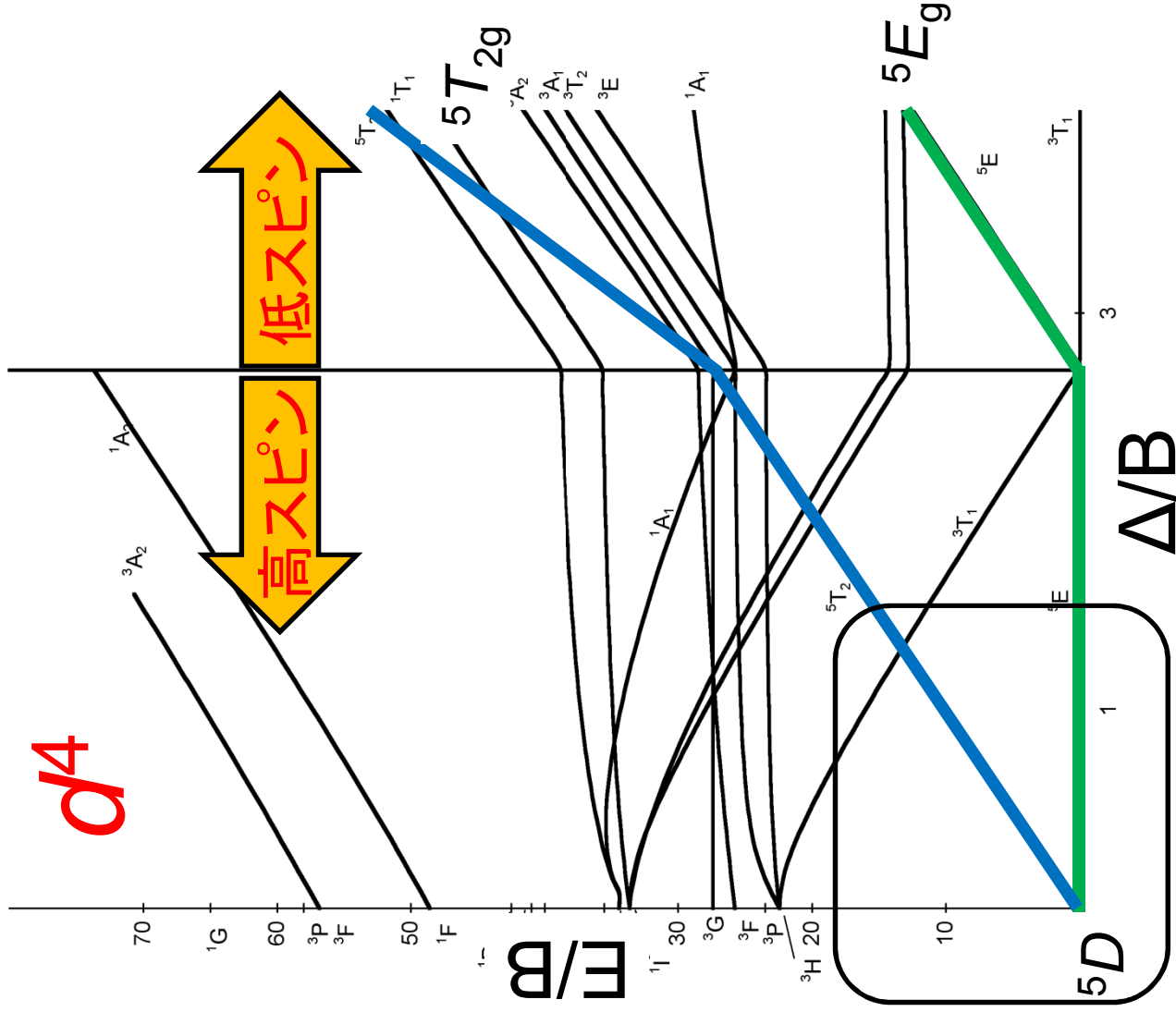


Orgelダイアグラム d^1, d^4, d^8, d^9 系列(D項)



高スピン状態のみを想定

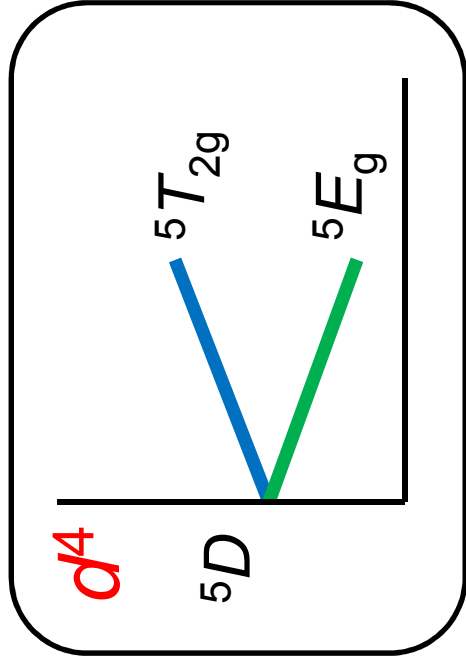
田辺-菅野ダイアグラム



- Orgelダイアグラムの改良版
(のようなもの)

- 基底項からのエネルギー差
(x軸が基底状態)

- 低スピンも考慮



選択則と強度

≫≫ 光学遷移：電気双極子遷移

(電気双極子モーメントが変化する遷移のみが許容)

$$\int \psi_f^* r \psi_i dr \neq 0$$

≫≫ ラポルテの選択律

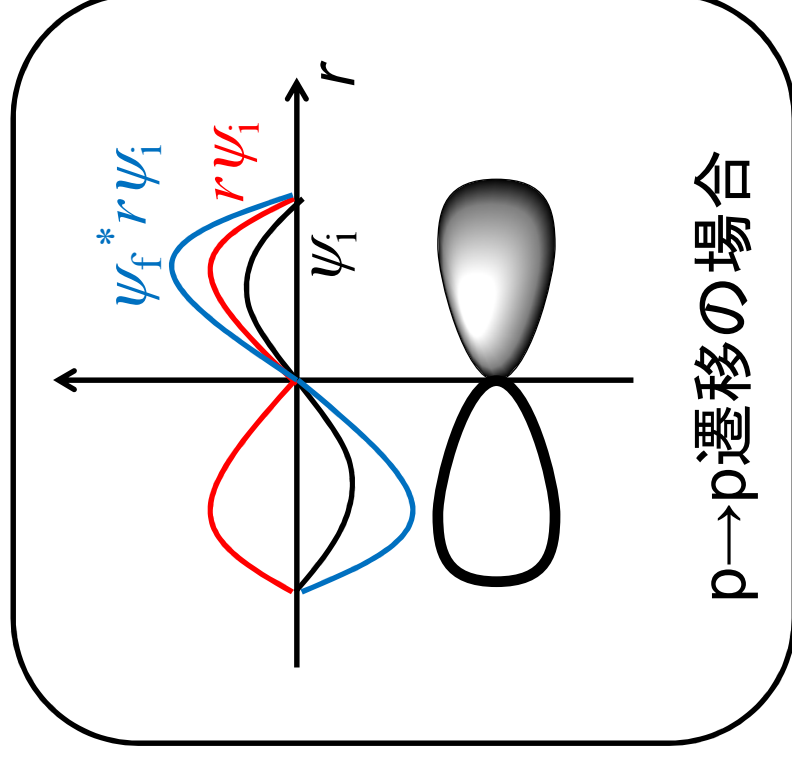
$$\left\{ \begin{array}{l} g \rightarrow g, u \rightarrow u \text{ は 禁制 遷移} \\ u \rightarrow g, g \rightarrow u \text{ は 許容 遷移} \end{array} \right.$$

g: 偶関数 (s軌道, d軌道)

u: 奇関数 (p軌道, f軌道)

≫≫ ラポルテ選択律の緩和

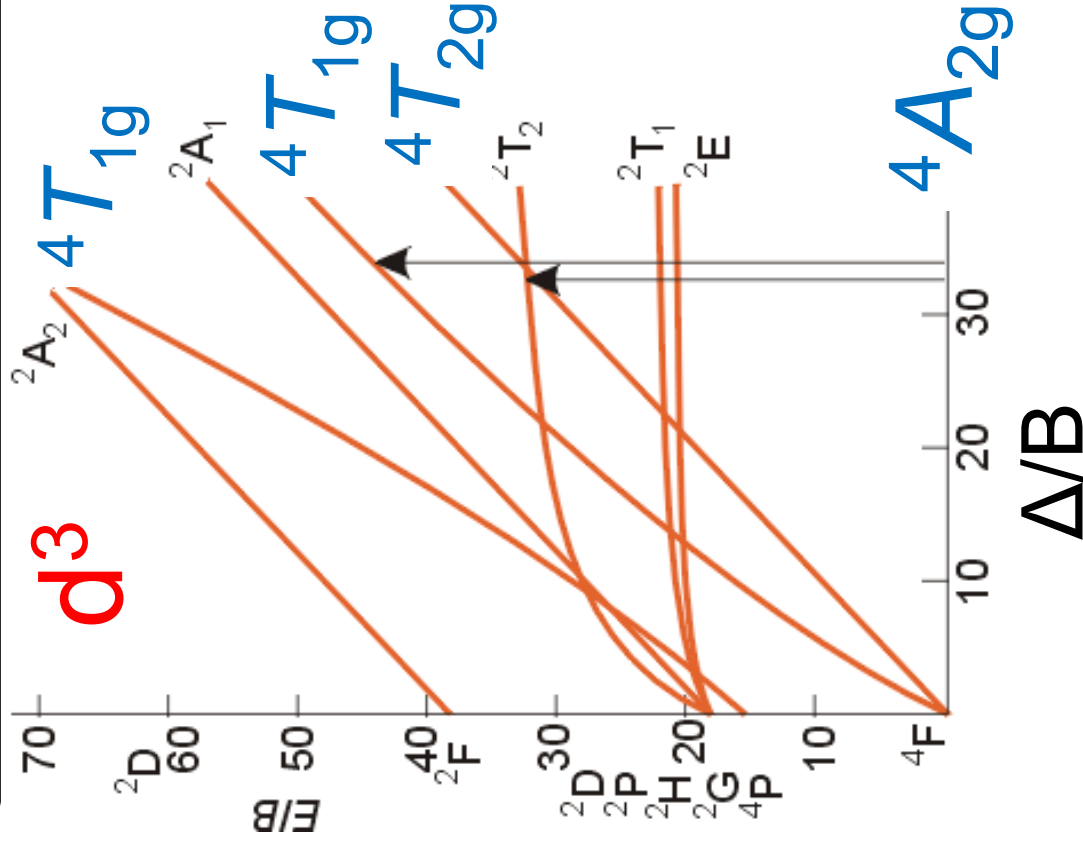
- ・分子の対称性の低下
- ・分子振動 (瞬間的な対称性の低下)



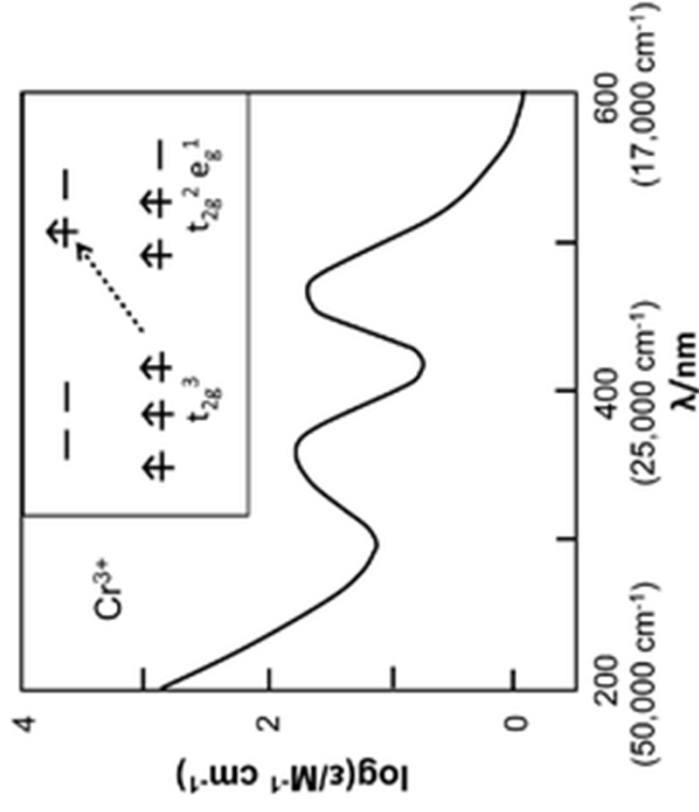
選択則と強度

スピン多重度の異なる状態間の遷移は禁制遷移

スピン多重度の異なる状態間の遷移は禁制遷移



・左肩の数字が同じものだけが許容遷移



[Cr(H₂O)₆]³⁺の紫外可視吸収スペクトル